

南相馬市及び浪江町における斑点米の被害予測と防除時期

福島県農業総合センター 生産環境部 作物保護科

1 部門名

水稻－水稻－病害虫発生

2 担当者名

清田裕司、前原 瞳

3 要旨

斑点米カメムシ類は、水稻の重要病害虫であり、その発生量は農地周辺の土地利用状態と関係がある。そこで、南相馬市及び浪江町の大規模法人経営の水田において、土地利用情報をもとにした主要種であるアカスジカスミカメの斑点米被害の予測と近年発生量が増加しているクモヘリカメムシの発生予測量を可視化したハザードマップを提示した。

(1) アカスジカスミカメの斑点米被害率は、水田から半径 300mの円内にある土地利用面積（ドローン空撮等で識別したイネ科雑草地・牧草地、ダイズほ場など）から予測した（図1）。ただし、水田内雑草はなく、殺虫剤の1回散布を条件とした。

※土地利用情報は、農林水産省で提供している農地区画情報（筆ポリゴン）で整理した。

(2) クモヘリカメムシ（以下「クモヘリ」という）の水田内での発生量は、水田から1 km 以内にあるスギ系植林地面積及び最も近いスギ系植林地までの距離から予測した（図2）。

(3) 図1のマップで2等以下、図2のマップで中以上と予測され、かつ7月中旬にクモヘリの発生を確認した場合は、1回目の防除は出穂期～穂揃期に実施することを奨励する（図3）。

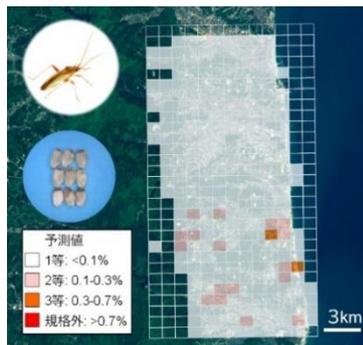


図1 アカスジカスミカメによる斑点米被害ハザードマップ

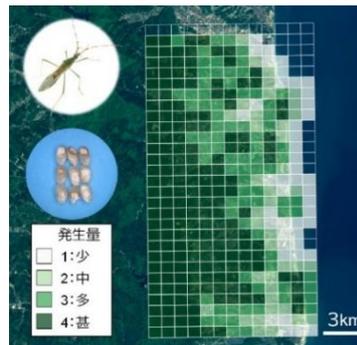


図2 クモヘリカメムシの発生量予測マップ

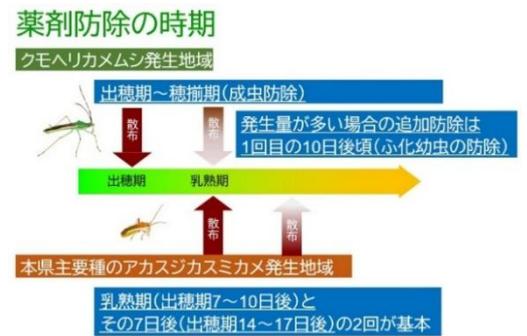


図3 斑点米カメムシ類の薬剤防除時期

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3～7年度

(2) 研究課題名 広域エリアを対象とした大規模水田営農における生産基盤技術の確立（農林水産分野の先端技術展開事業(JPFR25060106)

5 主な参考文献・資料

(1) 田淵ら, 福島県浜通り地域におけるアカスジカスミカメ被害予測モデルの適用可能性の検証, 北日本病虫研報, 75, p.93-100, 2024.